

# 第十九章 常呂川水系

## 第一節 概説

本川ハ北見國ノ稍東南ニ位シ其ノ源ヲ北見石狩十勝ノ國境ニ連亘セル千島火山脈ノ群巒ニ發シテ東北ニ流レ曲折彎行シテオホツク海ニ注ク北見最大ノ河川ニシテ全流程約四〇里ニ及ブ本川流域ハ北見國常呂郡ノ大部ヲ占メ東ニ彎曲シテ西南ヨリ東北ニ長ク其ノ長サ約二五里幅ハ中央部ニ於テ約七里アリ全流域面積一三〇八方里ヲ算ス本川上流部ヲ「シートコロ川」ト云ヒ此ノ流程約八里ニシテ同シク流程約八里ヲ有スル右支「ニユートコロ川」ヲ合ス之ヨリ河川ハ森林竹叢ノ間ヲ流レテ東北ニ進ミ野付牛ノ南方「ベテウコピ」ニ於テ流程約二二五里ヲ有スル最大支流左支「ムカ川」ヲ合流シ尙下リテ左支「ニコロ川」等ノ小支流ヲ容レツツ平野ノ間ヲ洋々環流シ常呂ニ於テ海ニ朝ス本流及ニユートコロ川並ムカ川等ノ水源地ハ一般ニ山岳重疊シ地勢急峻ニシテ森林狀態良好ナル密林ヲナシ中流部以下ハ地勢概ネ平坦ニシテ農耕地ニ適ス域内ニ二大平野アリ

一ハ河口ヨリ上流約四里ニ亘ル下常呂原野ニシテ他ハ野付牛ヲ中心トセル端野タナ訓子府間ノ本流沿岸ニ於ケル長大ナル農耕地ナリトスニユートコロ川合流以上ハ水勢一般ニ急ナルモ合流以下ハ漸次緩トナリ訓子府附近ヨリ下流ハ地勢ノ平坦ナルト相俟チテ水力利用ニ適セス左支「ムカ川」ハ常呂川本流ニ比スレハ水勢急ニシテ地勢亦良好ナルモ水量ノ少キ憾ミアリ本水系中水力利用ニ適スル河川ハ常呂川「シートコロ川」ニユートコロ川及ムカ川トス氣象ニ關シテハ略等シキ網走アヲ測候所觀測ニ依リ網走川水系ニ於テ述フヘシ

## 第二節 常呂川、「シートコロ川」、

「ニユートコロ川」、「ムカ川」

一、流域 本川全流域ハ北見國常呂郡ノ大部ヲ占メ面積一三〇八方里アリ内ムカ川合流點以上ノ常呂川流域ハ全流域内南部ノ置戸村及訓子府村ノ各大部ヲ占メ其ノ面積五五三方里トス本川上流部即チ「シートコロ川」ハ右支「ニユートコロ川」ト共ニ置戸村ノ南部ヲ占メ其ノ流域面積ハ「シートコロ川」一、二方里ニユートコロ川九、八方里アリ「シートコロ川」ハ水源ヲ北見十勝ノ國境一、三〇〇餘米ノ連峰ニ

發シテ左右ヨリ數箇ノ溪流ヲ合セツ山岳ノ間ヲ東北ニ流レ約四里ニシテ東南ニ轉シ流下スルコト一里半再ヒ東北ニ向ヒテ流レ之ト同シク國境ニ水源ヲ發シテ本川ニ並流シ左岸ノ高峻ナル山麓ヲ廻リ同一方向ニ流下シタル後一彎曲ヲナシテ北ニ向ヘル右支ニユートコロ川ヲ二俣ニ於テ合シテ常呂川本流トナル兩川共ニ上流部ハ急峻ナル地形ヲナスモ下流部ハ沿岸農耕地ニシテ二俣ニ於テ稍廣瀾ナル地積アリニユートコロ川合流以下ハ山嶺相距リ地勢漸ク緩トナリ左右溪流多ク耕牧地ニ富ム。ムカ川流域ハ常呂川流域ニ西接シ西南ヨリ東北ニ狹長ナル地域ヲナシテ常呂郡武華村及相ノ内村ヲ占メ其ノ面積三八三方里アリ水源ヲ北見石狩十勝ノ三國々境ニ發ス其ノ北方分水嶺ハ北見山脈中ノ最高部ニシテ一、八〇〇米内外ノ峻嶒巍然トシテ聳ユ南方分水嶺亦一、三〇〇餘米ヲ有スルヲ以テ上流部ハ山勢頗ル急峻ニシテ加フルニヌプリバオマナイ川落合下左ノ沿岸ニユクリヤタナシ岳一、三三二米ノ屹然トシテ聳ユルアリ頗ル高峻ナル地形ヲナスモ下ルニ從ヒ山勢次第ニ衰ヘ地勢緩トナリ沿岸廣瀾ナル農耕地ヲナス河川ハ水勢緩ニシテ一大弓形ヲナシテ流下シベテウコビニ於テ常呂川本流ニ合ス之ヨリ流向北ニ轉シ地勢益緩ニシ

テ沿岸一帯耕牧地ニ適シ河口下常呂ニ於テ一大原野ヲナス。地質ハ常呂川、シトコロ川及ニユートコロ川流域ハ殆ト安山岩ニシテ唯二俣ヨリシトコロ川中流部及ニユートコロ川中流部ニ至ル間ノ兩河川沿岸並ムカ川合流附近右岸及クンネツ川上流ニ僅少ノ上部第三紀層アルハ訓子府附近右岸山岳地帯ハ古生層ニ屬スムカ川流域内ハ上流部國境附近ニ僅少ノ石英粗面岩ヲ見以下狹少ノ安山岩ヲ介ミテ再ヒ石英粗面岩トナリヌプリケシヨマ川落合ニ至ル間ノ河川兩岸ヨリ北部一帯ヲ占ム中流部武華附近ハ上部第三紀層ニ屬シルベシハ附近ハ左岸石英粗面岩ニシテ上相ノ内ニ至ル間ハ古生層ナリ以下上部第三紀層ニシテ本川右岸分水嶺附近ハ何レモ安山岩ニ屬スムカ川合流下本流ニアリテハ野付牛附近兩岸上部第三紀層ニシテ狹少ノ安山岩地帯ヲ挾ミ以下太茶苗附近ニ至ル流域一帯ハ古生層ニ屬ス之ヨリ下流右岸ハ上部第三紀層ニシテ左岸及海岸ハ第四紀層ナリ。林野狀態ニ就テハ山林地ハ良好ナル密林ニシテ全流域ノ約五割七分ヲ占メ殆ト國有林ニシテ置戸ヨリ野付牛ニ至ル間ノ右岸分水嶺附近ニ野付牛公有林アリシトコロ川及ニユートコロ川ノ間ニ挾マレタル中山亦野付牛公有林ニ屬シ中山公有林ト稱ス是等

森林ハ概ネ針葉樹八割闊葉樹二割ノ針闊混溶林

全森林ノ九割ヲ占メ闊葉樹林約一割アリ耕牧地ハ全流域ノ約四割三分ヲ占メ常呂川及ムカ川ニ挾マレタル相ノ内村ニ約二方里ノ種畜分場アリ。更ニムカ川合流點ヨリ上流常呂川流域ニ就キ述ブレハ訓子府原野ヨリ上流ハ山林地九割四分農耕地六分ニシテ山林地ハ殆ト國有林ニ屬ス二俣ノ上流シトコロ川及ニユートコロ川間ニ挾マレタル中山ハ公有林ニ屬シニユートコロ川合流附近ヨリ下流兩岸ニ少部分ノ民有林アリ之カ割合ハ國有林八割七分公有林八分及民有林五分トス國有林並公有林ハ凡テ針葉樹八割闊葉樹二割ノ針闊混溶林ニシテ針葉樹ハ、エゾマツ、トドマツ、闊葉樹ハ、ナラ、ハリギリ、カツラ、ヤチダモノ類多ク樹齡四十年ヨリ三百年ニ達ス森林ハ凡テ自然林ニシテ國有林ハ輪伐期百二十年回歸年三十年トシテ擇伐喬林作業ヲ行ヒ天然更新ヲ主トス中山公有林ハ皆伐シテ、エゾマツ、トドマツノ六年生ヲ植林スル計畫ニシテ目下著手シツツアリ其ノ他國有林ニ於ケル伐採ノ狀況ヲ述ブレハ第一期伐採區域ハ、シトコロ川ノ中部左岸及ニユートコロ川落合下兩岸ニシテ大正元年ヨリ大正十年迄ニ終リ目下第二期伐採ニ著手セリ伐木ハ針葉樹九割闊葉樹一割ノ割合ニ

シテ年約三十五萬石ヲ算シ中山公有林ハ同シク年約二萬四千石ヲ算スト謂フ伐採期間ハ十一月中旬ヨリ翌年三月中旬間ニシテ之カ搬出ハ森林鐵道ニ依レリ、二俣附近ニ於ケル農耕地ヨリハ豆類、麥類等ヲ産ス。シトコロ川流域内ハ山林地約九割七分農耕地約三分ニシテ山林地ハ國有林九割二分公有林七分民有林一分ニシテ樹種樹齡及植林伐採ノ狀況等前述ト同シ亦ニユートコロ川流域ニ關シテハ山林地約九割五分農耕地約五分ニシテ山林地ノ割合ハ國有林約九割公有林約一割ニシテ樹種樹齡及植林伐採ノ狀況其ノ他前述ト同シムカ川ニ就テハ相ノ内ヨリ上流流域ハ山林地約九割農耕地約一割ニシテ山林地ハ國有林八割九分民有林一分ニシテ國有林ハ凡テ針葉樹八割闊葉樹二割ノ針闊混溶林ニシテ民有林ハ主トシテ闊葉樹ヲ存ス其ノ他一般狀態ハ常呂川流域ノ夫レト大差ナク森林ハ殆ト自然林ニシテ植林ヲナセルモノ現在ニテ二箇所約十町歩アリ第一期伐採區域ハ本川中流部ニシテ年約二十五萬石ヲ擇伐シ森林鐵道ニテ輸送ス武華附近ニ於ケル農耕地ヨリハ豆類、麥類、薄荷等ヲ産ス尙武華測水所流域内ハ山林地約九割二分農耕地約八分ニシテ内山林地ハ國有林九割六分民有林四分ヲ占ム。氣象ニ就テハ本省設置オケ

トウンナイ氣象觀測所ニ於ケル大正九年ヨリ大正十一年六月迄ノ調査大要ヲ述ヘンニ月平均氣溫氷點以下ハ十二月ヨリ翌年三月迄ニシテ十二月ハ大正九年ノ零下三〇度ヨリ同十年ノ零下九度ニ至リ一月ハ大正九年ノ零下一度ヨリ同十一年ノ零下〇一度ニ至リ二月ハ大正十一年ノ零下四一度ヨリ同十年ノ零下五五度ニ三月ハ大正十年ノ零下二九度ヨリ同九年ノ〇一度ニ至ル月平均氣溫ノ最高ハ大正九年ハ七月ノ二四九度同十年ハ同シク七月ノ二三八度ナリ而シテ絶對最低ハ大正十一年一月廿七日ノ零下三八七度ニシテ絶對最高ハ大正十年七月十二日ノ三〇四度トス降水量觀測ハ大正七年十月ヨリ同十一年九月迄ニシテ年降水總量大正八年九三三〇耗同九年一四九五一耗同十年七三四〇耗ニシテ平均一〇五四八耗ヲ示シ一般ニ夏秋ニ多ク冬春ノ候少シ蒸發量ハ大正九年ヨリ同十一年六月迄ニ於ケル年總量ハ大正九年五二一八耗同十年六五四七耗ニシテ平均五八八三耗ヲ示シ概シテ冬季ニ少ク夏季ニ多シ。次ニムカ雨量觀測所ニ就キ述ヘンニ調査期間ハ大正八年ヨリ同十一年六月迄ニシテ降水量年總量ハ大正八年八六九七耗同九年一、二六〇一耗同十年六二四六耗ニシテ之カ平均九一八一耗ヲ示シ夏秋ニ多ク冬春ノ

候ニ少シ流域内ニハ沼湖ナキモムカ川ハ湧水アリ多クハ溫泉ニシテムカ川中流部沿岸ニ三箇所アリオンネニ溫泉殊ニ著名ナリ他ハ何レモ湧出量少シ

二河川狀況 「シートコロ川」及「ニウトコロ川」ハ共ニ中流部以上ハ峻嶮ナル山岳密林ノ間ヲ流レ河岸河床共岩盤ノ露出多ク水面勾配急ナルモ下流ハ右岸緩傾斜ノ山麓ニ「ニウトコロ川」合流附近ヨリ下流ハ右岸砂礫層多ク河床玉當ルモ左岸ハ廣大ナル平野ニシテ河岸砂礫層多ク河床玉石混リ砂利層ヲナス訓子府ヨリ下流ハ亂流多ク河岸砂礫層及砂質土壌ニシテ河床砂利層ヲナスムカ川ハ常呂川ニ比シ山勢一般ニ急ニシテ河川岩盤ノ露出多シ即チ中流部以上ハ概ネ河岸河床共岩盤ニシテ所々玉石層ヲ混ヘ水面勾配稍急ナリ下流部ハ右岸高臺ヲナシ左岸低ク砂礫層ニシテ河床亦玉石混リ砂利層ヲナシ水面勾配緩トナルムカ川合流點ヨリ下流ハ水勢緩ニシテ沿岸一帶ニ低ク下部砂礫層ニシテ上部ハ肥沃ナル土壤ヲ以テ覆ハル河床砂利層ニシテ下流ニ從ヒ水面勾配益緩トナル。常呂川流量調査ハ始メ測水所ヲオケトウンナイニ設ケタルモ短期間ニシテ之ヲ下流川向ニ移セリ川向測水所ノ調査期間ハ大正九年十月ヨリ同十一年七月迄ニシテ之ニ依リ月平均流量ヲ

見ルニ一月乃至三月間ハ平均一五四個内一二月ハ一五一個ニシテ年内最小ヲ示シ四月ヨリ増水シ五月最大ニシテ五五一個ヲ流出シ漸次減水シツツ十月ニ至リ稍増水セシモ以降減水ス之ヲ年別ニ依リテ見ルニ年内月平均流量最小ハ大正十年ハ二月ニシテ大正十一年ハ一月及二月ナリ而シテ年別一月乃至三月間月平均流量ハ大正十年一六六個大正十一年一四二個ヲ示シ年内最大ハ共ニ五月ナリ。上流シートコロ川ニ於ケル上置戸測水所ノ調査期間ハ大正八年十一月ヨリ大正十一年四月迄ニシテ之カ平均ヲ示セハ月平均流量ハ一月乃至三月間平均ハ七六三個ニシテ二月ハ年内最小六五五個ナリ四月ヨリ増水シ五月最大ニシテ五〇五個ヲ流出シ漸次減水シテ八月ニ至リ再ヒ増水シ以降減水ス之ヲ年別ニ依リテ見ルニ年内月平均流量ノ最小ハ大正九年ハ十二月ノ七三一個大正十年及大正十一

年ハ二月ニシテ前者六七八個後者四三三個ヲ示セリ又各年別一月乃至三月間ノ平均流量ハ大正九年一〇三個大正十年七一七個大正十一年五三九個ヲ示セリ。ムカ川ニ於ケル流量調査ハ大正八年一月ヨリ同年十月迄ハ武華市街地測水所ニ依リ以降大正十一年八月迄ハ下流武華原野測水所ニ依レリムカ原野測水所ノ調査期間内平均ヲ述ヘンニ月平均流量ハ一月乃至三月間平均ハ一一五個ニシテ二月ハ最小一〇五個ヲ示シ四月ヨリ増水シ五月最大ニシテ七二二個ヲ流出シ漸次減水シツツ八月ニ至リ増水シ九月減水シテ十月再ヒ増水シ以降減水ス年内月平均流量ノ最小ハ大正九、十、十一年ハ共ニ二月ニシテ大正九年ハ一三八個同十年九四個同十一年八四個ナリ而シテ年別ニヨル一月乃至三月間平均流量ハ大正九年一四六個大正十年一〇二個大正十一年九六個ヲ示シ最大流出ハ各年共五月ナリ

常呂川 流量表

\*ハ大正九年十月一日以降大正八年ノ同期間ニ於ケル資料ヲ充當シテ各種ノ流量ヲ査定セルモノナリ

順位	舊順位	河川	測水所	面積		流量				流域一方里當流量				
				年次	最大	平均	低水	湧水	最小	最大	平均	低水	湧水	最小
				大正八年	二四〇〇	三三七	一六	一〇九	八九	九七	九一	六七	四四	三六
				大正九年	二四〇〇	三三七	一六	一〇九	八九	九七	九一	六七	四四	三六
				大正十年	二四〇〇	三三七	一六	一〇九	八九	九七	九一	六七	四四	三六
				大正十一年	二四〇〇	三三七	一六	一〇九	八九	九七	九一	六七	四四	三六

順位	舊順位	河川	測水所	流域面積	流量				流域一方里當流量						
					年次	最大	平水	低水	最大	平水	低水	最小			
四五	一	常呂川	北見國常呂郡置戸村川南	二七九五 (大正九年十月)	大正十年 平均	二二〇〇	二〇〇〇	一六〇〇	一四〇〇	二〇〇	七二	五九	五二	四六	
四六	二	シトコロ川	北見國常呂郡置戸村上置戸	一一二	大正十年 平均	六三	六二	六	五	一〇〇	二四	二四	七九	五九	九〇
四七	六五	ムカ川	北見國常呂郡留邊野町武華原野	二五七五	大正十年 平均	三三	三三	一〇	一〇	一〇	八九	五二	四六	三九	

元臨時發電水力調査局調査ノ流域一方里當水量ハトコロ川ニ於テハ低水量九・一個、濁水量七・三個ニシテ前表ニ比スルニ低水量二・八個、濁水量二・五個同シクムカ川ニ於テハ低水量五・一個、濁水量四・三個ニシテ前表ニ比スルニ低水量ハ同一ニシテ濁水量〇・四個多シ之レ林野状態ノ變化ニヨルモノニシテムカ川ノ差少キハ伐木ノ多カラサルト温泉ノ影響ニヨリテ冬季結氷ノ甚シカラサルニ依ルモノナリ

水源地ニ於ケル森林状態ハ良好ナル自然林ニシテ流量變化稍調和サレ川向測水所ニアリテハ平水濁水量ノ比一・九低水濁水量ノ比一・三ニシテ上置戸測水所ニアリテハ平水濁水量ノ比二・三低水濁水量ノ比一・三ニシテ武華原野測水所ニアリテハ平水濁水量ノ比二・二低水濁水量ノ比一・三ヲ示ス冬季河川結氷ハ川向測水所ニアリテハ十二月中旬ヨリ翌年三月迄ニシテ河川全幅結氷シ氷厚約二尺ニ達シ三

月中旬ヨリ解氷ヲ始メ四月上旬ニ至リ終ルヲ以テ此ノ期間ハ流水多シ上置戸測水所ニ於テハ十二月中旬ヨリ翌年三月下旬迄ニシテ河川全幅結氷シ氷厚約二尺ニ達シ三月中旬ヨリ解氷ヲ始メ四月上旬ニ終ルニユイトコロ川ノ結氷状況ハシトコロ川ト大差ナシムカ川ニ於ケル武華原野測水所ニアリテハ十二月下旬ヨリ翌年三月中旬間ニシテ河川全幅結氷シ氷厚約一尺五寸ニ達シ三月中旬ヨリ四月上旬ニ亘リ融氷スルヲ以テ流水亦此ノ間ニ多シ

テ六五個ノ水量ヲ引用スルモノアリムカ川ニアリテハ武華村字オンネニ於テ二〇個同村字オンネナニ於テ三〇個ノ水量ヲ引用スルモノアリ灌漑用水關係ハ目下ナキモ將來大ニ利用サルルニ至ラン。流水ハ常呂川ニ於テ富士製紙會社ノ製紙原料其ノ他建築用材ノ流送多ク主トシテエゾマツトドマツノ針葉樹ニシテ最長一二尺徑二尺ノ丸太材又ハ野角材ニシテ散流ニヨリ野付牛ニ於テ一部陸揚ケヲ行ヒ他ハ下流常呂港ニ流下ス之カ流送ハ五月上旬ヨリ十月下旬間ニ行ハレ年平均約十一萬石ヲ算スムカ川

ナルハ下流下常呂原野ニシテ大正二年ヨリ大正五年迄ニ於テ最大浸水面積三千町歩年平均損害額約三萬二千圓ニ達シ全流域内損害額ノ五六ばいせんとヲ占ム之ニ次クハ野付牛ヲ中心トセル端野訓子府間ノ農耕地ニシテ同シク大正二年ヨリ大正五年間年平均損害額二萬五千餘圓ニ達スト云フ治水ニ關スル北海道廳ノ計畫大要ハ區域ヲ河口ヨリ訓子府間トシ下流部下常呂原野ニ於ケル河岸ノ高水防禦工事及端野訓子府間ノ護岸工事及新河道掘鑿ニシテ全工事費概算六百六十七萬圓ヲ計上シ大正十年度ヨリ工事ニ着手シ七箇年繼續事業トシテ目下施工中ニアリ水車利用ハ常呂川ニアリテハ置戸村字オケトウシナイニ於

ルハ訓子府原野ヨリ上流ニシテニユイトコロ川合流ニ至ル間ハ平均約一六〇分ノ一ヲ示ス地勢概ネ平坦ニシテ水路ハ河川ヲ遠サカリ放水路自ラ長ク之レカ利用ニ就テハ考慮ヲ要ス上流シトコロ川ハ良好ナル地點ヲ得ルモ流量最少キヲ以テ比較的經濟的地點ナラス右支ニユイトコロ

川亦然リ工事ハ地勢上困難ナラサルヘシムカ川ハ水面勾 中ルベシベヨリ上流ハ最有利ナル區域ナリトス但シ下流  
 配ノ稍急ナルト工事容易ナルヲ以テ支派川多ケレトモ取 上相ノ内ニ於テ右岸ニ二地點ヲ選定セルモ左岸沿岸農耕  
 入口ヲ適宜選定スレハ殆ト全河川ヲ利用スルヲ得ヘシ就 地多ク將來之カ灌漑用水ノ利用ヲ見ルヘキ傾向ナルヲ以

常呂川水力地點表 落差ニ\*ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	延長	流域	能發電	年平均馬力數	等級
一三八	常呂川	一	北見國常呂郡置戸村 上置戸 ニエトコロ川落合下	同郡置戸村 上置戸第十八號線	湯水 一二二 低水 一四六 平水 二二七	一六〇	一、九八九 二、五九三 三、八五四	二六九四	二二四六	一〇〇〇 九九〇 九二〇	一九八九 二、五七七 三、四六六	甲
一三九	同	二	北見國常呂郡置戸村 置戸市街	同郡置戸村 オケトウシナイ	湯水 一三二 低水 一七三 平水 二五五	七〇	一、三三四 一、九八一	二四二〇	二七四二	一〇〇〇 九九〇 九二〇	一、三三二 一、三三一 一、二八三	甲
一四〇	同	三	北見國常呂郡置戸村 オケトウシナイ	同子府原野村	湯水 一三七 低水 一八〇 平水 二六六	五七	八六七 一、一三九 一、六八三	二、六八〇	二、六三三	一〇〇〇 九九〇 九二〇	一、五四八 一、二二六 一、一〇六	乙
一四一	シトコロ川	四	北見國常呂郡置戸村 オロカトコロ川落合	同郡置戸村 上置戸第三十二號線	湯水 五三 低水 六九 平水 九八	*一一〇	六四七 八四二 一、一九七	二、二二四	九六六	一〇〇〇 九九六 九七一	六四七 八三三 一〇四三	甲
一四二	同	五	北見國常呂郡置戸村 上置戸 一號線三十一 上置戸	同郡置戸村 オトコロ川落合上	湯水 六〇 低水 七八 平水 一一〇	*一〇五	六九九 九〇九 一、二八二	一、九六六	二、二二三	一〇〇〇 九九六 九七一	六九九 八六七 一、二七	甲

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	延長	流域	能發電	年平均馬力數	等級
一四三	ニエトコロ川	六	北見國常呂郡置戸村 上置戸	同郡置戸村 シトコロ川落合	湯水 四五 低水 五八 平水 八二	*一六五	八二四 一、〇六二 一、五〇二	二、三六七	八三三	一〇〇〇 九七六 八七一	八三四 一、〇三七 一、三三八	甲
一四四	ムカ川	七	北見國常呂郡武華村 シケレヘン合流	同郡武華村 オンネ	湯水 七八 低水 一〇二 平水 一七八	*一二〇	一、〇三九 一、三五九 二、三七一	三、八〇〇	一九九	一〇〇〇 九七〇 八四三	一、〇三九 一、三三八 一九九	甲
一四五	同	八	北見國常呂郡武華村 北見電氣會社發 電所下四百間	同郡武華村 ホシムカ	湯水 八七 低水 一一三 平水 一九八	*一〇九	一、〇五三 一、三六七 二、三九六	三、〇〇〇	二七二	一〇〇〇 九七〇 八四三	一、〇五三 一、三三八 二、〇一〇	甲
一四六	同	九	北見國常呂郡留邊藥町 武華原野ボシムカ	同郡留邊藥町 ルベシナイ市街下 ボシムカ	湯水 一一九 低水 一五六 平水 二七二	七一	九三八 一、二二九 二、一四四	一、九六二	三、〇五五	一〇〇〇 九七〇 八四三	九六九 一、二九二 一、八〇七	乙
一四七	同	一〇	北見國常呂郡相ノ内村 上相ノ内第三十 八號線五百五十間	同郡相ノ内村 上相ノ内	湯水 一二五 低水 一六四 平水 二八六	九八	一、三六〇 一、七八四 三、一一一	二、四〇〇	三、一〇一	一〇〇〇 九七〇 八四三	一、三六〇 一、一七〇 二、六三三	甲
一四八	同	一一	北見國常呂郡相ノ内村 上相ノ内	同郡相ノ内村 相ノ内	湯水 一三〇 低水 一七〇 平水 二九六	六五	九三八 一、二二七 二、一三六	三、〇〇〇	三、三〇〇	一〇〇〇 九七〇 八四三	九六九 一、二九〇 一、九一〇	乙

テ使用水量ノ減少ヲ見ルヘシ

見ル地質ハ下部安山岩ニシテ上部砂層ヲ以テ覆ハル傾位

永方地點ノ説明「ニエトコロ川合流以下ハ左岸展ケ

一三八地點ハ「ニエトコロ川合流點ニ取入レ水面勾配約

農耕地ヲナシ右岸緩傾斜ノ山裾ニシテ遙ニ地方費森林ヲ

一三六分ノ一ヲ有ス其ノ下流ニ峰村製材株式會社ノ地點

一、アリ、オケトウシナイ川落合ニ取入ル 順位一三九地點ハ水面勾配約一五三分ノ一ニシテ下流 順位一四〇地點ニ至ルヤ水面勾配約一七五分ノ一ヲ示シ河岸砂礫層ヲナス水力工事ハ概シテ容易ナリ、水力利用範圍ハ訓子府原野ヨリ上流置戸市街ニ至ル間ノ落差約一五〇尺及上置戸第十八號線ヨリ上流ニユートコロ川合流點ニ至ル間ノ落差約一三〇尺トス

「シートコロ川ハ水面勾配急ニシテ山岳相迫リ急峻ナル地形ヲナシ河川ハ密林ノ間ヲ流レ河岸所々ニ堅硬ナル岩盤ヲ露出ス水力利用範圍ハニユートコロ川合流ヨリ上流「オロカトコロ川落合ニ至ル間ニシテ此ノ總落差約二四〇尺ニ達ス 順位一四一地點及順位一四二地點ハ共ニ水力工事比較的容易ニシテ水路ハ左岸ヲ通スルヲ可トス

「ニユートコロ川ハ略シートコロ川ニ相似タル地形ヲナシ左岸ハ森林ニシテ右岸ハ耕地ヲナシ地質岩盤多シ上流ハ流量少キヲ以テ下流部ニ順位一四三地點ヲ選定セリ

「ムカ川ハ下流ルベシベニ至ル迄ハ水面勾配急ニシテ右岸ハ低ク農耕地ヲナスモ左岸ハ急峻ナル傾斜ヲナシテ所々ニ岩盤ヲ露シ附近密林ヲナス河床亦堅硬ナル岩盤ノ露出多ク河幅比較的狭シ之ヨリ下流相ノ内附近ハ水面勾配

ヲ見ルニ一月中旬迄ハ平水量ヲ流出シ之ヨリ三月迄ハ主トシテ低水量ヲ上下シ年ニヨリ平水、低水量中間ヲ流出スルコトアリ四月ヨリ十月末迄ハ平水量超過ノ時期多ク時ニ七月中旬ヨリ末迄及九月下旬ニ低水、濁水量中間ヲ流出スル年アルト共ニ大正十年ノ如ク同期間七月ヨリ八月中旬迄平水量ニシテ以下平水、低水量間ヲ流出シテ十月ニ及フコトアリ又十一月ハ大正九年ノ如ク平、低水量中間ヨリ濁水量ニ下リテ十二月ノ濁水量流出ニ至ルコトアルト共ニ大正十年ノ如ク十一月ハ平水量ヲ超過シテ十二月ニ平、低、濁ノ各水量ヲ出スコトアリテ下半年ハ夏秋ノ降水量ニヨリ左右セラルルコト多シ即チ七月下半年ノ低濁中間水量ト八月下旬ヨリ十月ニ至ル間ハ時ニ低濁中間水量ヲ流出スルコトアルヲ考ヘ低水量近クヲ使用スルヲ利トスヘシムカ川ノ結果ヲ見レハ一月乃至三月間ハ水量ノ變化多クレトモ概シテ低水濁水量ヲ上下スルモノニシテ一般的ニハ低濁平均水量使用ヲ可トスヘシ四月ヨリ七月中旬迄ハ平水量ヲ超過スルハ一般變化ト等シク其ノ他ノ狀況ハ「シートコロ川上置戸測水所ニ相似タリ交通ニ就テハ凡テ鐵路ニ近クシテ道路亦發達シ便利ナリ

緩ニシテ右岸稍急峻ナル傾斜ヲナシ地質軟岩ニシテ左岸ハ低ク農耕地ヲ展開ス水力利用範圍ハルベシベ町ヨリ上流シケレベツ川合流ニ至ル間ノ總落差約四〇〇尺及之ヨリ下流上相ノ内第三八號線ヨリ相ノ内ニ至ル間ノ總落差約二二〇尺トス 順位一四四地點ハ下流ニ發電開始ノ北海道電燈株式會社有ノ水力地點アリ 順位一四五地點ハ本地點ノ放水口下流約四百間ニ取入口ヲ有ス而シテコノ放水口下ニ續ク 順位一四六地點ハ水路ヲ左岸山脈ニ沿ヒ主トシテ開渠ニヨリ一部隧道ヲ交フルヲ可トシ本川ニ於ケル最良地點ヲナス、以上ノ地點ハ概シテ工事施工容易ナルモ順位一四六地點ハ相當困難ナリ 順位一四七、一四八地點ハ左岸低ク右岸ハ山裾ナレトモ傾斜緩ニシテ工事容易ナリ然レトモ前述ノ如ク左岸ニハ他日水田開發サルヘクダメニ使用水量ニ減少ヲ來スヘキヲ以テ考慮ヲ要スヘシ水位ノ差ハ各測水所ニ於ケルモノハムカ川最大約五尺、シートコロ川最大約五尺常呂川ハ僅ニ約二尺ナリ水量ノ變化ニ就テ各測水所ノ概要ヲ述ブレハ一方里當流量ハ前表ノ如クニシテ概シテ豊富ナラス特ニムカ川ニ於テ然リトス然シテ年内水量變化ヲ見ルニ川向測水所ニ於テハ調査短期間ナルヲ以テ之ヲ略シ狀況略相等シキ上置戸測水所ノ變化

## 第二十章 網走川水系

### 第一節 概説

本川ハ北見國ノ東南ニ位シ北見釧路ノ國境ニ聳立スル本道中帶山脈ノ峻峰ニ其ノ水源ヲ發シ重疊タル山岳ノ間ヲ北方ニ流レ翻木禽ノ少シク上流ニテ左支、ケミチヤブ川ト同地ニ於テ流域内西南隅ノ「チミケブト」沼ニ其ノ源ヲ發スル左支「チミケブ」川ヲ合シテ稍其ノ體ヲナシ下リテ右支津別川及左支「タプロ」川ヲ合シ左岸ハ山裾右岸ハ農耕地ノ間ヲ流レ方向ヲ東北ニ轉シテ美幌ニ至リ最大支流右支美幌川ヲ合ス、之ヨリ廣濶ナル平野ノ間ヲ流レテ網走湖ニ注キ再ヒ出テ幾何モナクシテ網走町ニ至リ、オホーツク海ニ朝ス、コノ流程約二一七里ナリ、本川流域ハ南北ニ長ク約一六里アリ東西ノ幅ハ上流部ノ最廣キ所ニテ約九里下流ニ至ルニ從ヒ漸次狹ク約一里アリ地勢概ネ南ヨリ北ニ向ヒテ傾斜ス、本川分水嶺中南方及右支津別川トノ連山ハ一、〇〇〇米ヲ越ユルモ西南利別川トノ分水嶺西方常呂川及東方下流ノ分水嶺ハ六〇〇米程度ヨリ漸次低下ス。本